

## WG3/エコツアーの可能性

### プロジェクト名：幅広い人たちにエコツアーに参加してもらうための基盤整備

#### 要約

2012年9月21日～10月2日の間、東北大学生態GCOEの支援を受けて、PEM(Professional of Ecological Management)受講生たちは極東シベリアに滞在しました。目的は、クラスニヤール村に住む少数民族、ウデゲの人たちが抱える問題を実際に見て、解決策を考えることです。彼らは昔ながらの狩猟生活を送り、タイガの森を大切に護っています。森や川の神に感謝し、過剰な狩猟・漁業は行いません。また、近くを流れるビキン川の美しさ、タイガの森の雄大さは日本ではなかなかお目にかかれない光景です。しかし、近年彼らの生活に欠かせないタイガの森は繰り返し伐採の危機にさらされています。自然豊かで美しいタイガの森を護るために、またウデゲ人の生活や文化を伝えていくために、WG3はエコツアーを企画します。現在、タイガの森フォーラムでクラスニヤール村へのエコツアーを行っています。しかしインタープリターが野口氏しかおらず、今後のツアー回数の増加や持続には不安が残る状態です。ツアーを成功させ持続させるためには効果的な宣伝と正確なインタープリターと村のインフラ整備が必要である。具体的には以下の4つの課題が挙げられる。1)ツアーの宣伝、2)日本・ウデゲ双方のインタープリターの育成、3)村のインフラ整備、4)運営費・育成費の支援費取得です。また同時にツアーの充実化を図ることも重要であると考えられた。

#### 感想

この実習に参加する前、ロシアの印象は正直よくなかった。食べ物もよくわからないし、字もよめない、パンフレットにはロシア人は笑わないと書いてあり不安で仕方がなかった。まして、GW3ではエコツアーをテーマにしており、そんな国でツアーが成立するのか疑問だった。実際に行ってみるとクラスニヤール村の人達はホスピタリティにあふれていた。鹿肉はおいしいし、バーニャ(ロシア式サウナ)の後のビールは最高だった。またウリマで見た原生のタイガの森は素晴らしかった。



今後さらなるエコツアーの発展のために必要なことは、情報の発信だと思う。私だけかもしれないがロシアに対する不安を取り除くことがツアー客の増加につながるだろう。またインタープリターの育成も重要な課題であると思う。今回のツアーに参加後に取ったアンケートにおいて、どんなことに不便を感じたかの問いに対して、コミュニケーションという答えが多かった。そのため、村の人が日本に留学できるような支援システムをつくりが必要なのではないか。そして最終的に、留学経験者が他の村人に日本語を教えるというような村の中でだけでめぐるシステム作りが肝要であると思われた。